

- ・様々な行事を通して子どもたちと触れ合うことができる。
- ・地域の声に誠実に対応する。
- ・コミュニティの意識を高め、地域としての教育力を生かす。
- ・地域の方々が地域と学校に誇りに思う。

3. 学校経営の重点方針〈澄川小学校が目指す学校〉

(1)「主体的・対話的で深い学び」を進め、資質・能力を育む学校(かしこい子)

本市の授業改善の推進に向けた共通取組事項「**焦点化・イメージ化・視覚化**」に基づく**徹底した授業改善**を通して、アクティブ・ラーニングの視点から、子どもがわかる授業を行う。その際に、「何を学ぶか」という意味で学習内容を深く理解するだけでなく、「どのように学ぶか」つまり生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続ける力を身に付けさせ、基礎学力の向上は基より、質の高い学びを実現していく。そのためにも、**継続した家庭学習の定着**をは重要であり、家庭と連携を図り、宿題による習慣化と自主学習の確立に向けた支援を学校が積極的に行う。

GIGAスクール構想実現に向けた取組を推進するため、端末を活用した教員の研修を進め、一人一台ずつの端末を有効に活用し、学習効果を最大限に高めていくとともに、**ICTを効果的に活用し、課題探求的な学習の充実**を図る。

また、**特別支援教育を推進**するために研修の充実を図り、個別の教育支援計画の活用や医療、福祉等関係機関との連携を強化するとともに、全ての教職員が障がいの特性を理解した中で、一人一人に応じた支援や手立てを大切にする特別支援教育の考え方を全ての学級の学びに生かすし、専門性の更なる向上に努める。

また、全学年の外国語の学習の充実と、中高学年を中心とした専科教育の導入を進め、学習活動全体として子ども一人一人のニーズに応じた確かな学力を育てていく。

新しい時代に対応した学習の基本

- か…活用する学習
- き…協働する学習
- く…工夫する学習
- け…計画する学習
- こ…交流する学習

(2)多様な価値を尊重する人間性豊かな心を育む学校(なかよい子)

不登校の未然防止に向けて、子どもの心をつかもうとする教職員の姿勢を育み、子どもたちが「学校が楽しい」と感じるよう、魅力ある学校づくりや自己肯定感・有用感を育む居場所づくりを行う。また、不登校の早期発見、丁寧でスピード感のある対応に努める。

いじめ防止に向けて、全ての子どもたちが相手に対する思いやりをもち「いじめを絶対許さない」と考えることができるよう、子どもが主体的に考え、活動する集会やルールづくりを行う。

道徳的な実践力を高めるため、子どもたちが「**考え、議論する**」道徳の授業となるよう改善に努め、参観日に道徳の授業公開を設定する。また、地域人材を生かした「**こころの授業**」を実施し、命の大切さや思いやり、がん等の病気や健康について考えるなど、子どもたちが命と心につ

いて自ら気づくような指導の充実に努める。

(3) 健康な体づくりを進め、粘り強く生きる力を育む学校(がんばりぬく子)

未来をたくましく生きて働くための「健康な体」は、「確かな学力」と「豊かな心」を育む基盤であり、家庭と連携した**基本的な生活習慣の定着**が重要となる。また、「早寝・早起き・朝ごはん」や、テレビ、スマートフォン、ゲーム機器等の使用時間を抑え、成長発達に有益な情報機器の利用の啓発を進め、地域人材を活用した食育や情報教育を推進し、保護者の協力を得ながら、子どもたちへ規則正しい生活習慣を身に付けさせる。

運動の日常化を通して、たくましく健康な体づくりを進める学校を目指すために、子どもが主体的に運動に取り組む環境を整え、体力づくりや**体育授業の改善・充実**を図る。

(4) 学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される学校(学校像学びを保障する機関)

社会に開かれた教育課程により、子どもたちの学びを保障していく必要があり、前例踏襲や現状維持の意識から脱却し、新たな発想や考え方を取り入れ、創意工夫ある教育活動を展開していくことが求められている。学校が行う全ての取組を、どの学級でも全ての教師が子どもたちの生涯のために全力で行い(「チルドレン・ファースト」)、様々な課題に対して「チーム学校」として組織的に解決を図る**組織力を高める**。若手職員、ミドルリーダーだけでなく、全教職員が以後の勤務校や人生に生かせるように進んで研修し、**教師力**やそれぞれの経験に応じた力量を**向上**させる。**家庭や地域社会・緑陵中学校区エリアでの連携**に進んで取り組み、「**地域と共にある学校**」として地域全体で子どもを育てる環境を創る。包括的な学校改善を推進し、学校力を高め、保護者が安心して子どもを預けられる学校、地域からあたたかく支援される「**信頼される学校**」を目指す。

また、コミュニティの意識を高め、地域としての教育力を生かしながら、学校運営協議会(コミュニティスクール)を開始し、活動を進めていく。

(5) 新しい時代に生きる子どもたちの「生きる力」を育成する学校(新時代の教育観)

近年、学校は急激な変化や予測が困難な事態への対応に迫られることが多く、新型コロナウイルス感染症や温暖化、地震、火山噴火の自然災害、環境破壊による影響は、その代表的なものである。また、ヤングケアラーや性的マイノリティー、児童虐待、落ち着いて学習することが苦手な子どもや無理難題を要求する保護者や地域住民に対する対応、さらには鹿の大量出没、ミサイル等の飛翔体によるJアラートの発令、頻発する犯罪予告メール、近隣校への不法侵入事件、他県での不審者による学校侵入傷害事件等の多発する事件事故、そして、コロナ禍がようやく明けようとした今、次に迫りくる新たな強毒性ウイルスの脅威「鳥インフルエンザ」の変異株による人から人への感染等、現代的な諸問題も含めて課題が山積しており、これらに対応するため、感染予防対策の再強化や、学びのセーフティーネットの構築や危機管理(リスクマネジメントやクライシスマネジメント)による安全安心な学校づくりと、令和の日本型教育として学びの個別最適化やSDGsを含めた新しい時代に生きる子どもたちの「生きる力」を育てる教育の充実に努めていく。郷土への誇りとグローバルな視点を持ち、希望をもってたくましく生きる子どもを育てていく。

4. 今年度の重点取組事項

4つのキーワード **モチベーション** **誠実** **信頼感** **感染予防**

(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現と確かな学力を育てる取組

①徹底した授業改善

- 苫小牧市共通取組事項（焦点化・イメージ化・視覚化）の推進
- 評価基準と指導の一体化の推進
- 単元計画、ノート計画（国語科・算数科）の修正とデータ保存
- 全教員が授業改善を目指した指導計画の作成と授業の公開
- 効果的なICT活用の推進（研修、スキル向上）
- 研修講座、LIT授業公開、研究会の活用
- 授業に関わるメンター（指導者、助言者）研修の推進（授業改善SV・AD・LIT）
- 学習規律、澄川小スタンダードの定着
- 組織的な対応による個別最適な学びと協働的な学びの実現
- 落ち着いた学習態度を育成する安定した学習・生徒指導

<数値目標> 学校評価児童・保護者アンケートにおいて「勉強がわかりやすい」、「授業がわかりやすい」という回答を児童が95%以上、保護者が90%以上にする。

②家庭学習の定着

- 宿題と自主学習による毎日の復習の確立
- 家庭学習の手引きと学習計画（高学年）の活用
- 家庭学習の質の向上（活用力を身に付ける）

<数値目標> 学校評価児童、保護者アンケートにおいて「学校や家でしっかり勉強ができる」という回答を児童が90%以上、保護者が75%以上にする。

③読書活動の推進

- 朝読書、ボランティアによる読み聞かせ等、図書コーナーによる読書機会の充実
- 国語科における並行読書の推進
- 図書館利用ガイドによる授業での活用の推進
- 親子読書の推進

<数値目標> 1人当たりの学校図書貸出数の目標を、低学年16冊、中学年18冊、高学年12冊以上にする。

④特別支援教育の充実

- 特別支援学級及び通級指導教室の指導体制の整備
- 通常学級における特別な支援や配慮を要する児童への手立ての確立（UD）
- 学習上の困難に応じた指導内容や指導方法を工夫し、自立活動の指導の充実を図る。
- 特別支援学級や通級指導における個別の支援計画及び指導計画の全員作成と活用
- 障がい者理解教育、心のバリアフリーのための交流及び共同学習の充実

- 特別支援教育について研修を深め、専門性の向上を図る。
- 福祉機関や道立支援学校を含めた外部の専門機関等との連携の推進

<数値目標>学校評価自己評価において「特別支援教育の充実」という回答を90%以上にする。

(2) 豊かな人間性を育て、健康な体づくりを進める取組

①不登校への対応

- 苫小牧市の実情（優先課題）の理解
- SSW及び関係機関との連携
- 子ども支援ツール「ほっと」の活用
- 自己有用感を育む学級づくり
- 教育相談の充実

<数値目標>学校評価児童アンケートにおいて「学校は楽しい」という回答を90%以上にする。

②いじめ問題への対応

- アンケート及び個人面談の実施
- 児童主体による「いじめSTOP集会」の開催
- いじめを許さないルール作り
- 全児童に対しての個別の教育相談の実施
- 情報モラル教育の推進
- 偏見や差別のない環境づくりと命の大切さ、相手を思いやる心の育成

<数値目標>学校評価児童アンケートにおいて「いじめは許されない」という回答を100%にする。

③道徳教育の充実

- 全学級が参観日での道徳授業を公開
- 道徳授業の改善（「考え、議論する」授業）
- 地域人材を生かした授業実践、「こころの授業」充実、積極的な授業公開
- 体験活動の充実（施設訪問、福祉機関との連携）
- 公開授業、研究会を活用した道徳の研修推進

<数値目標>学校評価自己評価において「豊かな心の育成」という回答を85%以上にする。

④運動の日常化と健康の保持増進

- 主体的に運動できる環境の整備（体力づくりとボールパーク）
- 運動会種目と体力づくり、体育授業の関連
- 外遊びの推進
- 食育と保健教育の充実

<数値目標>新体カテストの「持久力」「走力」「投力」において、全ての学年で全国平均以上にする。

- ⑤ウイズコロナ、アフターコロナの時代にふさわしい生活リズムの定着
 - 家庭学習や電子メディアの利用、読書時間の課題を含めた望ましい生活習慣の定着
 - 新たなウイルスの脅威に対応した感染症対策と「新しい生活習慣」に基づく指導の徹底
- ⑥ふるさと教育の推進
 - わが町の良さの再発見と興味関心の高揚
- ⑦防災教育の充実
 - 「苫小牧市学校防災マニュアル」に基づく安全に対する意識と態度の育成
- ⑧環境教育の充実
 - 「持続可能な社会」や「ゼロカーボンシティ」の実現を目指した体験的な学習等の活動
- ⑨平和教育の充実
 - 「苫小牧市非核平和都市条例」に基づく平和に対する意識と態度の育成
 - 戦争等の報道による児童の不安感に対して、過去の事実を伝えるとともに、「自分たちに何ができるか」を考えさせる。自ら学びを深め、人のために行動していくことによって、心理的な安定感を持たせながら、平和をめざす心を養う。
- ⑩ジェンダー平等やヤングケアラーに配慮した教育環境づくり
 - 男女平等、性的マイノリティー等への配慮
 - ヤングケアラーの実態把握と対応

(3) 学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される学校

- ①学校力の向上
 - 指導技術の伝承による人材育成（ミドルリーダー、若手育成）
 - 教師力（資質、能力）の向上
 - 責任と覚悟をもった取組の徹底と継続
 - 組織力の向上（「ONE TEAM 澄川～絆～」）
 - 業務の簡素化・効率化、業務改善の意識化
- ②家庭・地域との連携
 - 学校の取組の発信（学校便り、ホームページ、メール配信）
 - 地域との情報交流
 - 地域資源・人材の活用（「アウトリーチ事業」、「出前講座」）
 - 「学びの3か条」の推進による生活習慣の確立
 - 保護者研修会の開催（家庭学習、情報モラル、読書の充実）
 - 北海道室蘭児童相談所苫小牧分室や苫小牧市こども相談センター、医療機関等との連携

③緑陵中学校区エリアでの連携（本校事務局校）

- 学校教育力向上エリア会議
- 教科、道徳における授業実践交流
- 特別支援教育における支援体制の充実
- 生徒指導等の情報共有
- 系統性、統一性のある取組
- 小1プロブレムに対応した幼小連携の推進

④学校運営協議会（コミュニティースクール）の開始

- 令和5年度から開始し、事務局校（緑陵中学校）が中心となって、両校の教職員や地域住民が互いに協力しながら目標や方針等を共有し、具体的な活動を進めていく。
- 生徒指導連絡協議会の経験を生かした計画を立てる。
- 小中一貫教育の推進

⑤働き方改革の推進

- 働き方改革の手引き「Road」を活用した「アクションプラン」の推進

⑥服務規律の保持

- 子どもたちの模範となり恥ずかしくない教師（模範的な発言）
- 保護者や地域の方々からの信用・信頼（全体の奉仕者としての自覚と発言、態度）
- 教育公務員としての意識を常に持ち、不祥事を防止

⑦安全で安心感のある環境整備

- 学校施設の点検、整備の充実
- 登下校を含む交通安全の確保
- 不審者や動物出没等の事故防止
- 地震や噴火、風水害等の未然防止

⑧危機管理能力の向上

- 情報の共有と管理の徹底
- 想定外を想定するリスクマネジメント（事故発生予防）とクライシスマネジメント（事故後の適切な対応）の充実
- 全教職員で協働・協調した対応